

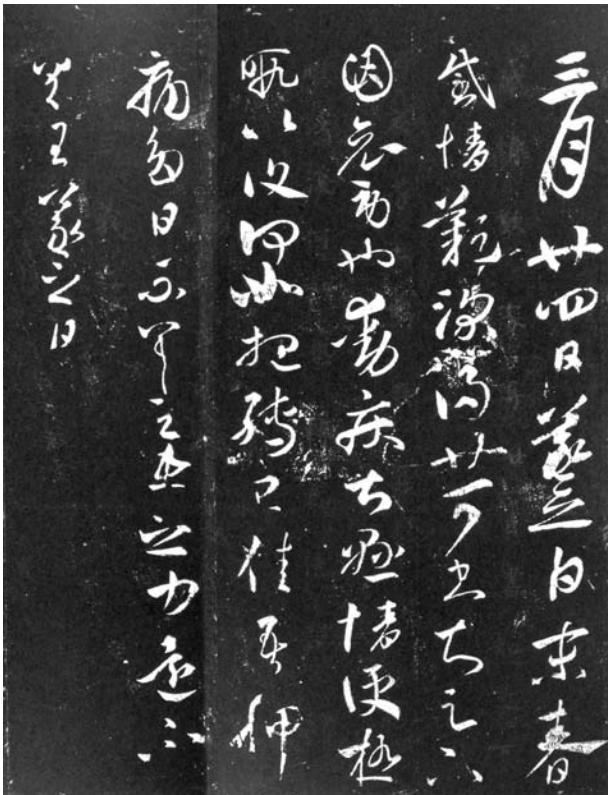
卷之五十六 司馬法 策六九
故代乞濟至魚鹽之物
之妻嫁於公孫豹奴晚公均服隨
波而向柳也。左志云：三月乃
之田。孔忠博曰：一之謂生極而生

以消渴也



書体鑑賞・「章草体」②『豹奴帖』

図版② 「末春帖」



義之頓首。昨得書問、所疾尚緩緩、既不能眠食、深憂慮。懸吾情、至不能不委。嫂故不差、狗奴晚不帰家、隨彼弟向州也。前書云、至三月間到之、何能尽情憂。足下所惠、極為感也、不謂也。

図版①



「豹奴帖」



人々が普段に用いていた書体では無かったのであるか。それ故に王羲之も若い頃は当然この章草体をよくしたと推測される。王羲之は、この章草体に改良を加え、今日に伝わる草書体を創出したのではなかろうか。『十七帖』と『豹奴帖』を部分的に比較した（図①）。ともに王羲之の書と伝えられるものであるが、明確に書法は、異なる。『十七帖』は筆勢が下の文字へと続くが、『豹奴帖』は一字ごとに筆勢が完了する。『澄清堂帖』には、他に『末春帖』も章草体で書かれている（図②）。

書聖・王羲之にも僅かであるが、章草体の作品が伝来している。草書の手本として有名な『十七帖』には、章草体は見られないが、宋代に制作されたと伝えられる『澄清堂帖』という王羲之の作品集には、章草体が見られる。主図版に示した羲之頬首で始まる『豹奴帖』は、完全な章草体である。史游や索靖などが好くしたといわれる章草体は、王羲之の青年期には多く

書道芸術院 平成の群像 (2015)



胡蝶舞

東 福 青 篁



等、今では親しみある句も丁寧に意味が書かれていた。当時のひたむきさが感じられる。

掲載の作品は、直線的な構成を主に曲を抑えること・白を意識することを課題とした。(余白が美しく見えるためには、筆力の強さが大切と日々考えている) 横形式にも挑戦しているが、難しい。

作品制作で大切にしたいと思う事は、濃墨での書線の深さ・骨力がある線質を淡墨では、美しい墨色と柔かな深みを出すことである。淡墨は天候・紙・書き手の筆触や書くスピード等によって発色の度合が異なる。発色の不思議と「書譜」の中の「五合五乖の論」と思えるからだ。手探りの時間を重ねて来だが、少しづつでも変化しただろうか、と自問する。

20年前突然に、小学校からの師と、淡墨の世界に導いて下さった師を相次いで失った。

「どんな時でも書の勉強はしておくように」

「師をなくしてからが本当の勉強です。一生懸命、古典臨書をしなさい」

「桜竹堂書話」「名碑法帖通解叢書」を始めた頃で、急ぎ「偶然欲書」を解説した。解説文や内容も非常に難解であったが、書聖・王羲之を中心に関連される書論に、大変興奮したことを思い出す。

「神融筆暢」「志氣和平」「偶然欲書」「志氣和平」

院のお仲間、心根の優しい弟子達に恵まれ、共に書の道を歩める事に心から感謝。

古い書棚から先日、30数年前のノートが出て来た。当時お稽古をしていた『書譜』についてのメモである。

何かの本で「書の技法や学書法を解説し、実作者としての体験的的理念も織り込みた総合的な『書論』である…」などを知った。

「桜竹堂書話」などを読み始めた頃で、急ぎ「偶然欲書」を解説した。解説文や内容も非常に難解であったが、書聖・王羲之を中心に関連される書論に、大変興奮したことを思い出す。

「神融筆暢」「志氣和平」「偶然欲書」「志氣和平」

院のお仲間、心根の優しい弟子達に恵まれ、共に書の道を歩める事に心から感謝。

漢字(五)

濱田尚川

篆刻・刻字(五)

後藤大峰



「念」(89×90・平成22年個展・幽玄斎蔵)
濱田尚川書

白隱(高僧)・蒼海(学者)から学ぶ
…書家以外から
三島龍澤寺で白隱の書と対面。ゆつ
たりしてすごい線に目を奪われた。
「常念、無、定。」この書の線質は満身
の気力を注ぎ強い迫力と粘り気をかも
し出す。大悟徹底した人が全身的に一
気に書いた書は、人に迫る内容と威力
のあるものです。味わえば尽きること
のない深さを持ち、しかも美しい書で
す。書法もへったくれもなく迫ってく
る書は、慈悲の一喝と受けとめたいと
思う。

雄渾と奇逸、莊重と峻秀と言うか手先
の器用さにたよる形式的な多様さとは
正反対の直感的な感興に基づく純粹さ
を内包しており、りんとして張りのあ
る線質で統一され格調が高い
作である。「睨む書」と言え
ば、副島蒼海の書の核心を印
象的に表現できるでしょうか。
この「念」は重心もうまく
安定できたので個展の会場入
口に坐ってもらつた。雄大な
構えを感じて、線に厚味を持
たせたい。重くならないこと。
黒が多いので空間の白がどれ
だけ生きるかな?

21世紀の書

—私の主張—



「不繫之舟」大作(3×4尺)
(第67回書道芸術院展) 後藤大峰刻

前回、題材としてアフリカの
「ヌー」と言う牛のことを話し
ましたが、ある方に「この様な
発想は何処で考えるのですか?」
と問われました。改めて聞かれ
ますと確かなことは難しいので
すが、発想は考えて出てくるも
のではありません。何処でも、
何時でも「ボツ」と、或いは
「バツ」と、言葉の表現は難し
いのですが出でてきます。

この作品は車を運転中に「バツ」

と出でたもので、忘れないようによ
り慌てて車を止めてメモしたのを覚えて
います。

題材が出てくれば、後は時間との勝
負です。搬入までの時間を逆算し印材
との格闘です。彫りは大胆で良いので
すが鈴印(捺し)が大変。印材が大き
いので紙との兼ね合いが難しいのです。
印泥の印材への塗布の量など、とても
繊細なところがあります。性格的に大
雑把なところがあつて紙一枚では、中々
仕上がりません。絞め切り前の何時も
の状況です。この作品は、昨年、第67
回展のものです。

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2015)

和光ホール29人展 2015年1月5日(月)～11日(日) 銀座・和光本館6階
セントラル会場100人展 2015年1月5日(月)～11日(日) セントラルミュージアム銀座
主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈和光ホール29人展〉

干支文字



「壺」



恩地春洋

98×69cm

干支文字



辻元大雲



「万歳の」片山由美子

74×164cm

干支文字



「おもひ」 橋口一葉



130×67cm

下谷洋子

「まなみし」 桂信子



131×38cm

下谷洋子

〈セントラル会場100人展〉

干支文字



半田藤扇



「四言二句」鍾伯敬

56×178cm

干支文字



「生命」



川島舟錦

183×60cm

干支文字



「永」

前田龍雲



121×91cm

特集：現代の書 新春展

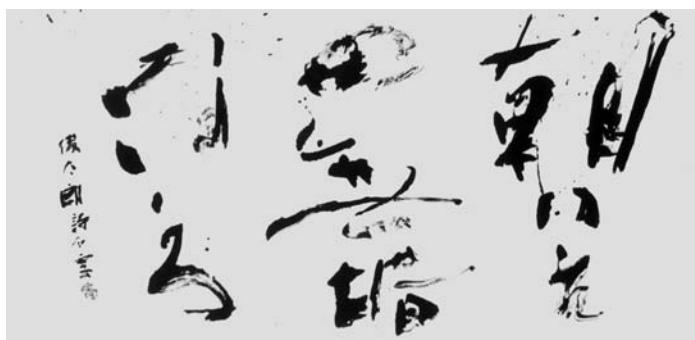
干支文字



干支文字



小竹石雲



「朝」谷川俊太郎

70×144cm

「天氣輪の柱」（銀河鉄道の夜より）
宮澤賢治

千葉蒼玄



154×72cm

干支文字



後藤大峰



「鼎新」『人天宝鑑』

60×70cm

干支文字



種谷萬城



「山中與幽人對酌」李白

63×138cm



川 島 舟 錦 「祈」

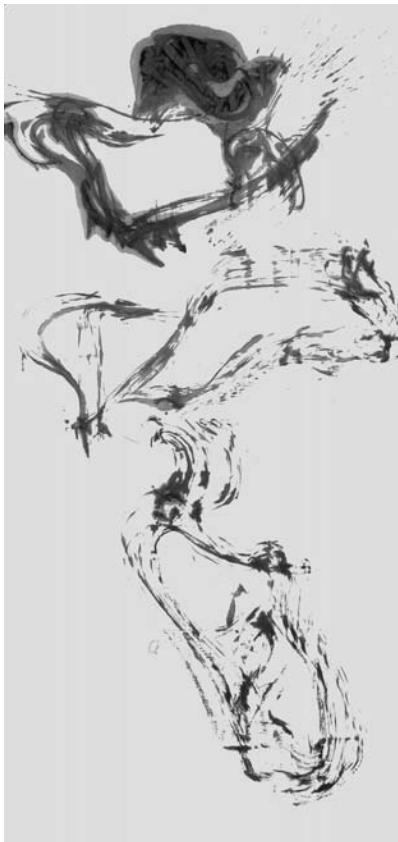
TOKYO 書 2015

公募団体の今

<日 時>
平成27年 1月 4 日(日)～16日(金)

<場 所>
東京都美術館（上野公園）
公募展示室 ロビー階第1・第2

<主 催>
東京都美術館
(公益財団法人東京都歴史文化財団)



山 口 仙 草
「喜による」



川 島 舟 錦 「山月」



田 村 鄭 雲 「光と闇」



山 口 仙 草 「大吉による」



阿部青沙
(千葉)



「野鷺暗破春」

良寛の字が好きです。見て下さった方がほっとできるような書を書きたいと思っております。最首先生には、「あなただけのものを。」と御指導をいただいています。基本を疎かにせず精進して参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

（青沙）



掛水美翠
(高知)



「登」

高山を彩る花々、美しい紅葉、樹木など、四季折々の景観に魅せられ山に登ります。雄大な穂高の峯々を想い書きました。

書の道は遠く試行錯誤の繰り返しです。ご指導下さる大野祥雲先生、仲間は感謝し新たな気持で書作に取り組んで参ります。

（美翠）



内藤公徳
(長野)



「祈り」

日中、家に居る時は暇をつくり短時間でも筆を持つ様にしている。それが一番心の休まる時もあり時間のすぎるのも忘れさせてくれる。言葉に宿ると言われる不思議な言霊の存在を思い一層心の安らぎを感じてくる。そっと手を合せ祈るにも似た思いを書き写す事が出来ればと思う。

（公徳）



岡崎翠園
(宮城)



「しらしゆに阿吽の旭さしたけり」「野見山朱鳥の句」

自然描写の中に心象を詠んだ句だと思います。心に響く詩文がよい素材になるとは限らない。いつも悩むところで書人会の皆さんに見守られながら、少しでも前に進みたく精進して参ります。ようくお願いします。（翠園）



平成26年度 新審査会員作品

佐々木豊苑（現）・森 西笳（蓮）・角張芳蘭（前）・佐藤初香（現）



角張芳蘭
(宮城)

貫

書道を続けるだけで、幸せ
と、自分に言いきかせて、あ
きらめる事なく、この資格を
いただけました事は、大内魯
邦先生、千葉蒼玄先生はじめ
多くの皆様に支えていただき
たおかげと感謝申し上げます。
年を重ねていくごとに、その
年令でないと表せないと表せ
めざして精進していくとい
思います。

(芳蘭)



佐々木豊苑
(宮城)

「蝶が来る阿修羅合掌の他の
掌に」
橋本多佳子句



吹溜りの銀杏の落葉へ、陽
の温もりを求めて、黄蝶が弱
々しく舞降りた光景を見て…
この度、審査会員にご推挙
戴き感謝いたします。木須翠
苑先生の熱心なご指導の元、
仕事と書の両立をさせて35年。
社友と切磋琢磨した熱き思い
を大事に、古典を勉強し、努
力研鑽を積みたい。(豊苑)



佐藤初香
(埼玉)



森 西笳
(大阪)

勢

この度、思いもよらない審
査会員昇格という重責をいた
だきました。竹扇会でご指導
を受けて居ります小伏竹村先
生、小伏小扇先生、玄遠社の
恩地先生はじめ諸先生方のお
かげでございます。
活気、気勢、活動力をもつ
てがんばりたいと思います。
(西笳)

楽しくスキップしているような雰囲
気を表現したく書きました。書の道の
奥深さを身にしみながら「心の青春」
を持ち続け、書活動が出来たらと考え
ます。
宮城野書人会の諸先生、書友に感謝
し、歩みは遅いのですが精進して参り
ます。

(初香)

平成26年度 新審査会員作品

II

田中梢翠（現）・野口加奈（前）・田口鈴水（漢）・酒寄光子（か）



田中梢翠
(青森)

「夢と目標に向って」



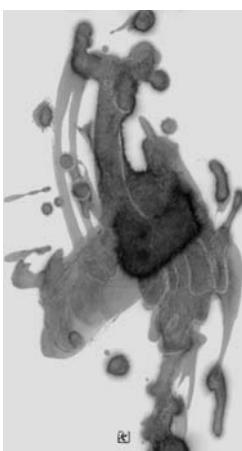
健康こそ我が財産と心に決め書の道に励んできました。83歳の今日、審査会員の推選をいただきました。先生方の熱いご指導に感謝申し上げ、これからも体力の続く限り、夢と目標に向って書き続けたいと思っております。

(梢翠)



野口加奈
(埼玉)

「進」



ここまで導いて頂きました香川倫子先生、前衛書と私を引き合わせてくれた亡き榎原春岱先生に深く感謝し、これからは線を鍛え、墨色の変化を摸索しながら日々精進して参ります。よろしくお引き回しの程お願い申し上げます。掲載の作品は、心新たに進む気持ちを表現致しました。

(加奈)



田口鈴水
(大阪)

「縁」

この度、審査会員に昇格させていただきありがとうございました。良き師・良き友に出会い平凡であった生活に生き甲斐を見出せるようになりました。書を通して得ることが出来た多くの「縁」に感謝し今回の作品と致しました。書道芸術院の一員として今後益々精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

(鈴水)

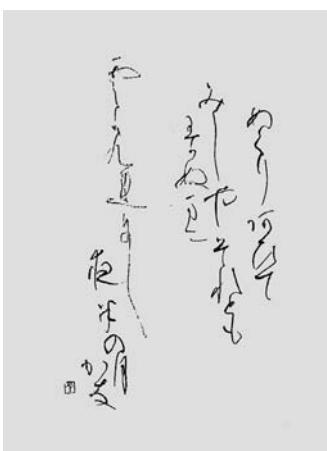


酒寄光子
(埼玉)

「めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにし夜半の月かな」

紫式部

立体感のある作品となるよう墨の濃淡に気を付けて書いてみました。これからも下谷洋子先生のご指導の下、平安仮名の力強い線の修得と現代的な作品構成を目指し楽しく勉強していきたいと思います。(光子)



14

平成26年度 新審査会員作品

水野大祐（現）・津村紫幸（篆）・谷口青龍（漢）・塩澤美紅（か）



谷口青龍
(京都)

「歩」

生まれて初めて書いた作品
ではがきサイズの「歩」を竹
扇会書展に出してから20年。
書道の師である小伏竹村先
生、小扇先生には、いろいろ
な面でお世話になっています。
書道を始めた時の真っ新の気
持ちを持ちながら、これから
も頑張っていきたいと思いま
す。

(青龍)

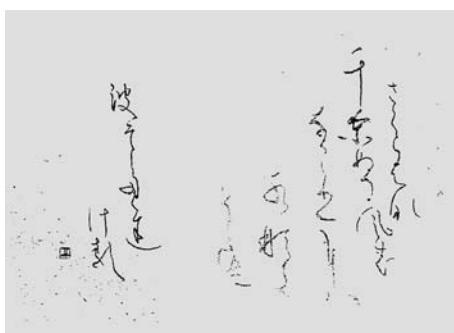


水野大祐
(東京)

「水音」

種田山頭火句

この作品は、筆脈と動きを大切に余白を生かしてリズムよく表現してみました。書の楽しさと奥深さを求めて一生懸命励んでいきたいと思います。師の広瀬舟雲先生はじめ諸先生方に深く感謝申し上げます。
(大祐)



津村紫幸
(千葉)

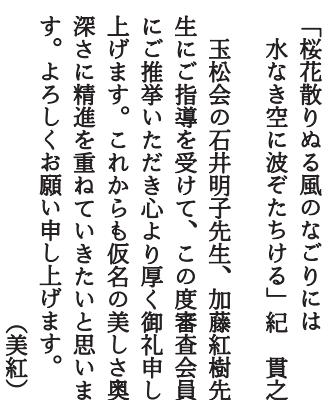


「明見万里」



明見万里
紫幸利賀

作品を制作する時は常々、
線と線の響き、空間同志のつながり、線と空間との呼吸を
意識しています。また、書いた作品に負けない強い線を刻
することも心がけています。
書道芸術院準大賞受賞、審
査会員昇格を機に、尚一層精
進して参りますので、今後とも
御指導のほど、宜しくお願
い申し上げます。
(紫幸)



塩澤美紅
(福島)

「桜花散りぬる風のなごりには
水なき空に波ぞたちける」紀貫之

玉松会の石井明子先生、加藤紅樹先生にご指導を受けて、この度審査会員にご推挙いただき心より厚く御礼申し上げます。これからも仮名の美しさ奥深さに精進を重ねていきたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。
(美紅)

自書告身帖（顏真卿）②

〈解説〉 颜真卿は初唐以来の流行である王羲之流（院体）の流麗で清爽な書法に反発し、「藏鋒」の技法を確立した。力強さと穏やかさとを兼ね備えた独特的の楷書がその特徴である。伝説では、颜真卿が貪しかった頃、屋根裏に染みた雨漏りの痕を見てこの書法を編み出したといわれている。叔父・颜元孫が編纂した「千禄字書」の規範意識に基づく独自の字形を持つものも多いが、その字形は當時

標準とされた楷書とは異なり、正統的な王羲之以来の楷書の伝統を破壊するものであつたため、賞賛と批判が評価として入り混じっている。これらの楷書は「顏法」（顏体、北魏流）とも呼ばれ、楷書の四大家の一人として後世に大きな影響を与えた。楷書作品には『顏氏家廟碑』、『麻姑仙壇記』、『多宝塔碑』、「顏勤礼碑」などがある。

（編集部）

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

※落款を必ず入れる

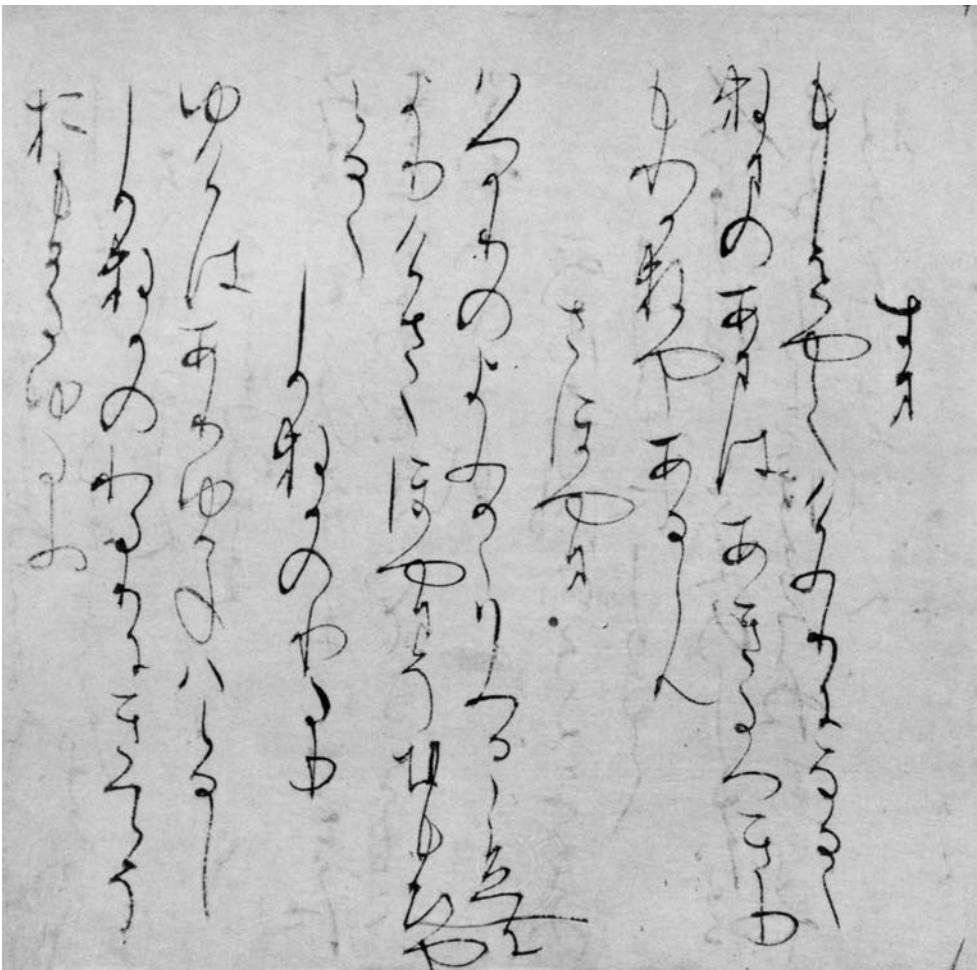
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみも可)



(83%縮小)

なかつかさしゅう
中務集（伝西行）②

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ可)



特別研究部
臨書課題題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）
左記の掲載以外も可。

かな研究部
臨書課題題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）
別紙を裁断して貼付也可。
半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上
を書く。（全臨也可）

<よみ>

すま万

利専

久介

可

利

ハ

可

利

久

介

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

利

ハ

可

〈解説〉

中務は、「後撰和歌集」

「信明集」「元輔集」「源順集」などの歌集に作品が載つ

ている。多くの公達と関係

があり、特に源信明との関

係は深く彼との間には藤原

伊尹室の井殿（源信明の娘）

がいる。他に元良親王、常

明親王との恋や、関白藤原

実頼、藤原師氏、藤原師尹

との関係が知られる。

（編集部）

習い方解説 (五)

小林琴水

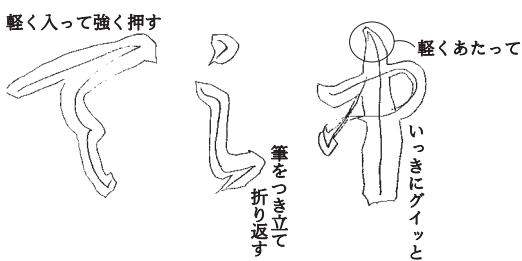
壺中之天 (四字熟語新辞典)
(壺中之天)

俗世界とかけ離れた別世界。
ユートピア。

ぐいぐいと書き進めていくこと。
顔真卿風にどっかりと肉づきよく
書いてみました。



書体=自由



壺中之天

よみ (壺中之天)

軽く入って強く押す

筆をつき立て折り返す

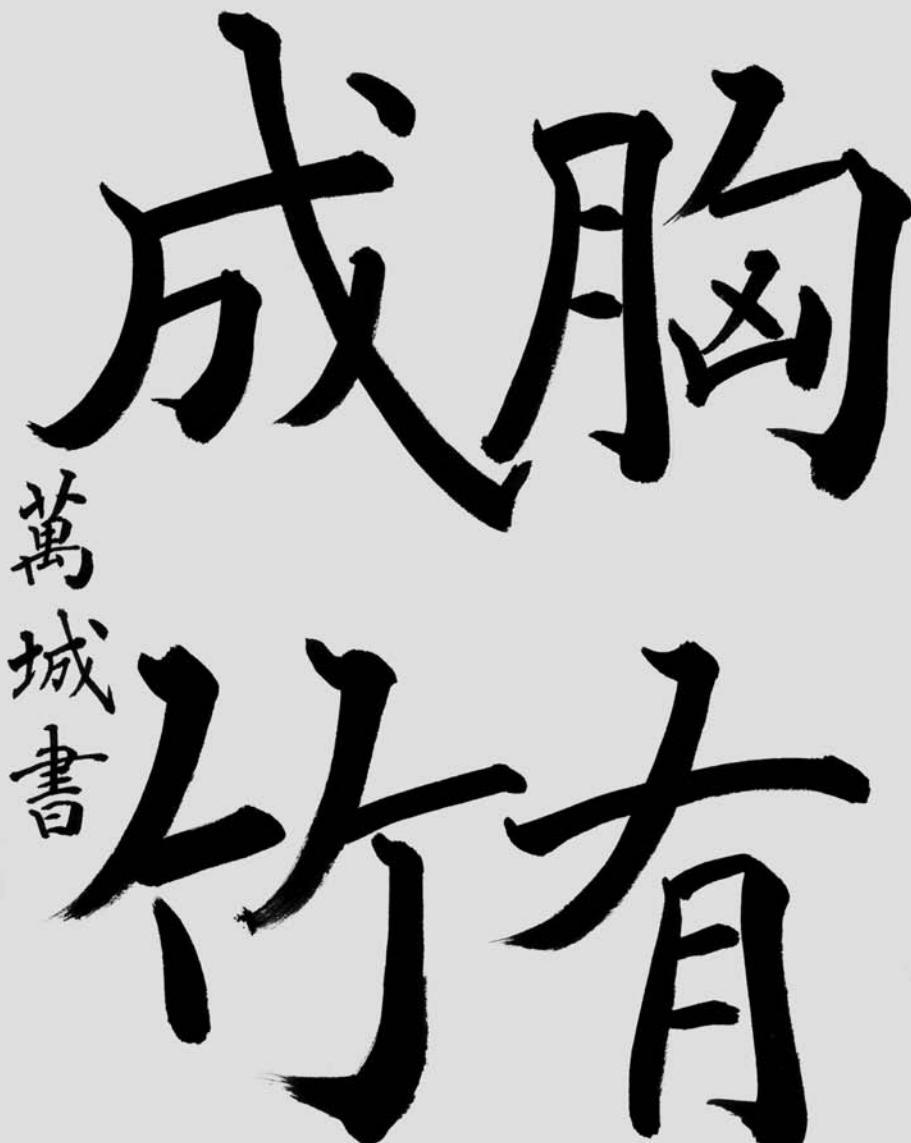
軽くあたって
いつきにグイッと

習い方解説 (五)

種谷萬城

胸有成竹
(胸に成竹有り)

(蘇軾)



書体＝楷書

宋・蘇軾の「画竹、必先得成竹於胸中（竹を画くに、必ず成竹を得る）」からきた言葉。竹を画く時に胸の中に竹の絵の構想が出来上がっていることの意味。

今は、初唐の三大家の一人・褚遂良の書・『雁塔聖教序』を倣書しました。『雁塔聖教序』は、筆の弾力を生かし、抑揚のある筆法で書かれ、繊細で変化に富んだ線性が特徴です。

書の学習の基本は、古典を手本にして習うことです。これを臨書といいます。古典には技法の素晴らしさと、時代や地域、作者の個性による美意識が反映されています。臨書した古典の特徴をまねて、別の言葉を書くことを倣書といいます。臨書と倣書により鑑賞力と表現力を高めて下さい。

胸有成竹 よみ (胸に成竹有り)

石井明子

ほのぼのと明けゆく庭に天雲ぞ
流れきたれるしら梅散るも
(石川啄木)

ほのぼのとあやめ

ほのぼのとあやめ

ほのぼのとあやめ

54

これ以上ないほど素直な言葉で
今の時期を詠っています。その歌
意を受けての表現を心がけました。
漢字と平がなのみ使用というと
ころまでは勇気がなく、読みにく
い漢字、複雑な変体がなを極力避
けてみました。

構成は余白が多めです。複雑な
線質が出せれば、あれこれ悩まず
作品になるに違いないのですが、
道遠しです。

また、1字の存在感、影響力に
ついても考えました。例えば、2
行めの雲を行書にするか、草書に
するかです。両方試してみると仕
上りの印象の違いがすぐわかりま
す。他と調和する漢字の選び方は
個々の判断に委ねますが、違
和感で眼が止まらないことは、大
事な基準と私は考えています。

よみ方

ほのぼ(の)の(の)とあけ(希)ゆく(久)に(尔)は(者)に(耳)天雲ぞ(そ)
な(那)が(可)れ(連)きた(多)れ(礼)る(留)しらうめ(免)ち(千)るも(毛)

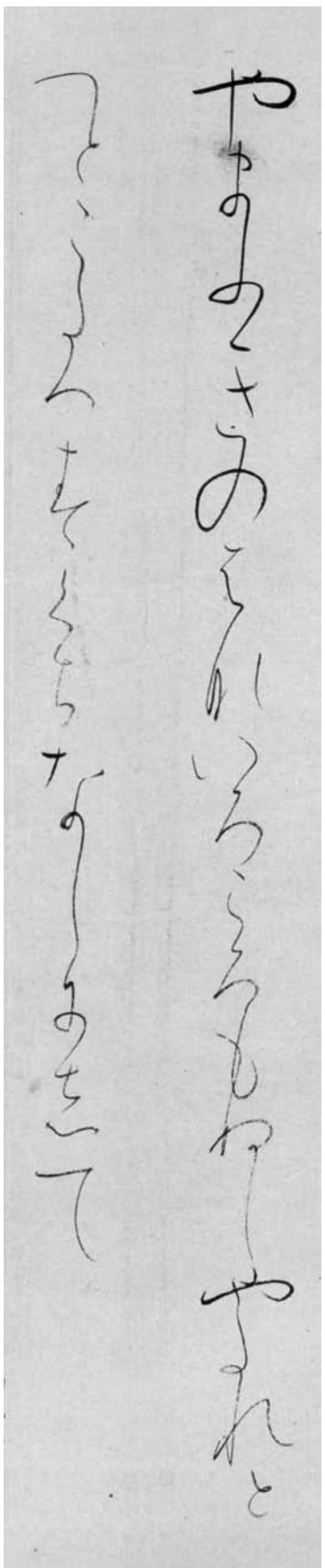
創作

かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 やまぶきのは(者)な(那)いろいろもぬしやた(多)れど
へどこた(多)へず(春)く(久)ちなに(尔)し(志)て

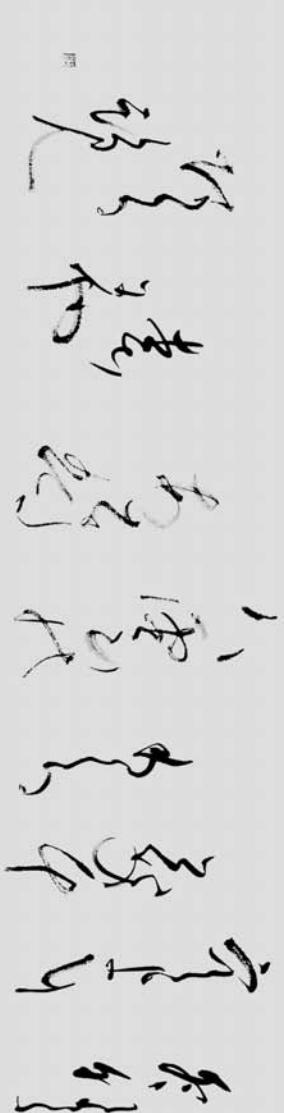
かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄司紅邨選書

習い方解説 (二)

庄 司 紅 郡

冬ながら空より花の散りくるは
雲のあなたは春にあるひむ
(清原深養父)



和歌よこ作品で、前半4行は少
し小さめの文字で書き、渴筆の中
心部は横幅を広くとりゅつたりと
表現しました。
墨継ぎは、春で墨量をしっかり
とり余韻を残して終筆に向ってく
ださい。

創作

出品券
貼付位置

*よこ形式に限る

よみ方 冬な(那)が(可)ら空より花のち(千)り(利)く(久)るは(八)
雲の(能)あなた(多)は(盤)春に(爾)やあ(阿)るらむ(覽)

半田 藤 扇



李白乘舟將欲行 忽聞岸上踏歌聲 桃花潭水深千尺 不及汪倫送我情
(李白に乗りて将に行かんと欲す 忽ち聞く 岸上踏歌の声 桃花潭水 深き千尺 及ばず汪倫の我を送る情に)

28文字を3行で創作する。条幅をいろいろな構成で書いてくると書作してみたくなる構成です。
3行仕立ては、真ん中の行の動きが、ものを言います。流れを大切に書き進んでいくと必然的に、優雅な作品が生まれてきます。
頑張って3行書きに挑戦してみましょう！
※たて形式に限る

習い方解説 (五)

大野 祥雲

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書



研冷欲生冰

(研冷かに氷を生ぜんと欲す)

(陸放翁)

書体＝自由

研は硯。冬の硯は冷たく氷が張
ろうとしている。
研を大きく書いたのに対し、欲
生を連継し、1字のようにしてみ
ました。冷と氷はやや細目でしか
も墨量が少なめです。全体の変化
と調和がむつかしいです。
みなさんはいろいろ工夫され
いい作品を仕上げて下さい。楽し
みにしています。

唐 岩 碧 水

王羲之

遣隋使、遣唐使で代表される中国
文化の輸入は、書では王羲之であり、手師
とも称されることはやされた。最も著名なのが
が「蘭亭序」であり、唐の太宗が熱
愛の余り、遺命により殉葬されたのは、周知の通りである。

碧水書

次号とともに大野祥雲先生著、「古
典に親しむ」に拠らせていただきまし
た。高知新聞に連載されたのを単行本
として一九九六年に発刊された名著で
す。

字数が多いですがついに、時空
を越えて、写経にも通ずるものあるよ
うに。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

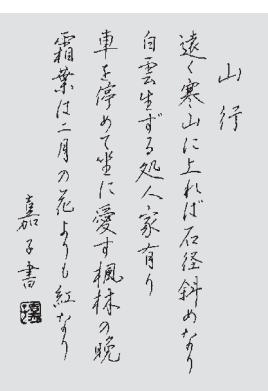
書体=自由

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 644

ペン字部 師範 石橋 嘉子
線質に変化を加えながら漢字か
な連続が美しく温雅で統一感あ
る佳作。日頃の鍛錬の賜物と推察。
◎ペン字部総評 全体的に楷書で
布置まで良い作品が多くたが行
書・草書作が少なく、今後ますま
すの研鑽を願う。 (和楓評)



かな条幅部 師範 吉田 淑子
一見、控えめな表現ながら、線
質の充実感、構成の妙味が相まつ
て、モダンで丈高き作品となつた。
(明子評)



◎かな条幅部 総評 全般に墨量過
多、字粒过大が目立ち残念。書の
草書、硯の行書は誤字多く、字典
の活用で訂正を望む。 (明子評)



現代詩文書部 特選 市川 桂泉
骨力のある稚拙さが詩意と相俟
つて心の深いところから語りかけ
てくる。不思議と熱くなつてくる。
◎現代詩文書部 総評 基本的な漢
字の勉強が大切。線の鍛錬と推敲
から生まれる書の研究を。(石雲評)

前衛書部 特選 石森 光季
大胆な運筆で紙面を圧倒。軟ら
かさの中に厳しさがあり、全体が
躍動感に満ちています。
◎前衛書部 総評 レベルはかなり
向上しています。特に斬新な作が
多く見受けられた。 (光昭評)

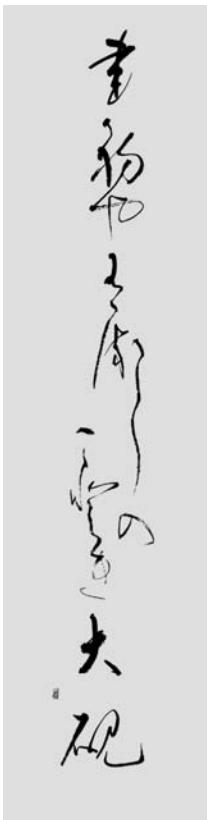
前衛書部 特選 石森 光季
大胆な運筆で紙面を圧倒。軟ら
かさの中に厳しさがあり、全体が
躍動感に満ちています。

かな部 師範 後藤恵津子
美しい墨色は、書き手の軽やか
な呼吸が聞こえて来るような高い
響き。今後は是非自分の世界を
つたが、小さい、細すぎるものや
墨が薄すぎるのも問題。下位の方
は自作を検討のこと。 (洋子評)

◎かな部 総評 総じて佳作が多か
ったが、小さい、細すぎるものや
墨が薄すぎるのも問題。下位の方
は自作を検討のこと。 (洋子評)

漢字部 師範 大隅 佳子
褚遂良の書法を基に、羊毫を用
い、多様な筆法で変化多彩な楷書
に仕上げた。品性高く見事な作。
◎漢字部 総評 書の学習の基礎は
古典の臨書です。広く深く地道に
古典を学び底力を養う事が大切で
す。向上を期待します。(萬城評)

漢字条幅部 師範 熊谷 桃華
リズム感ある運筆が歯切れよい
線を生み明快な作。全体のバランス
もよく安定感あり。
◎漢字条幅部 総評 上級横形式は
全体のバランス悪いもの多し。落
款も含め鍛練を。下級一行書も同
様。少画数の字形研究を。(大雲評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

現代詩文書

「冬の星座」

(もくせい)

西川藤象



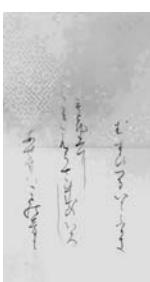
酒寄光子書

41×173cm



西川藤象書

176×45cm



拡大

かな
(卯月)

酒寄光子
「源氏物語和歌集」

◆滑らかな線、流れの良い行、その絶妙な組合せの古典美漂う作品です。後半の行間が特に美しい。

(明子評)

◆ここぞと思う所の墨継ぎ、全体を意識して書かれたのか、美しく全体を表現されている。圧巻。

(論子評)

◆かな特有の雅な雰囲気を持っている。構成も中心を大きく左右を小さくし山場を設けて見ごたえがある。

(蒼玄評)

◆薄紫ばかりの料色に源氏和歌を流麗に横展開する。自然な散らし構成と適度な潤滑の変化に好感。

(大雲評)

臨書
(英峰)

佐藤桂香
「始平公造像記」

◆心を一つにして97文字を書きあげる精神力はすばらしい。ここまで一つの流れを造り出す力を大事に。

(論子評)

◆稍、洗練されすぎではあるが、訴えてくる作品です。表現者の心の安寧が思われます。格調が高い。

(明子評)

◆造像本来のゆがみの造形は今一步だが全体を通してのリズムは貫して見事、欲を言えば用筆の息づかいがほしい。

(蒼玄評)

◆切れ味鋭く、北魏方筆の特徴をよく捉えている。素朴な雰囲気が加わればなおと思うが一貫性に魅力。

(大雲評)



174×45cm

◆針のように深くい込む線は秀逸、構成は平凡だが、2行を上品にまとめている。印はもう少し重い方が良いか。

(蒼玄評)

◆墨をたっぷりとつけた線、その反面枯れたような細い線など、なくてはならない所で表現され動き抜群。

(論子評)

◆剛毫系長鋒を駆使し、澄明な雰囲気を醸し出す。ひきしまった字形が冴えを見せるが後半やや窮屈。

(大雲評)

◆冬の空気の透明感が伝わってく るような間の美しい作品です。作者の詩心の深さからの表現に感動 です。

(明子評)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品

濯玄

尾形紅霞

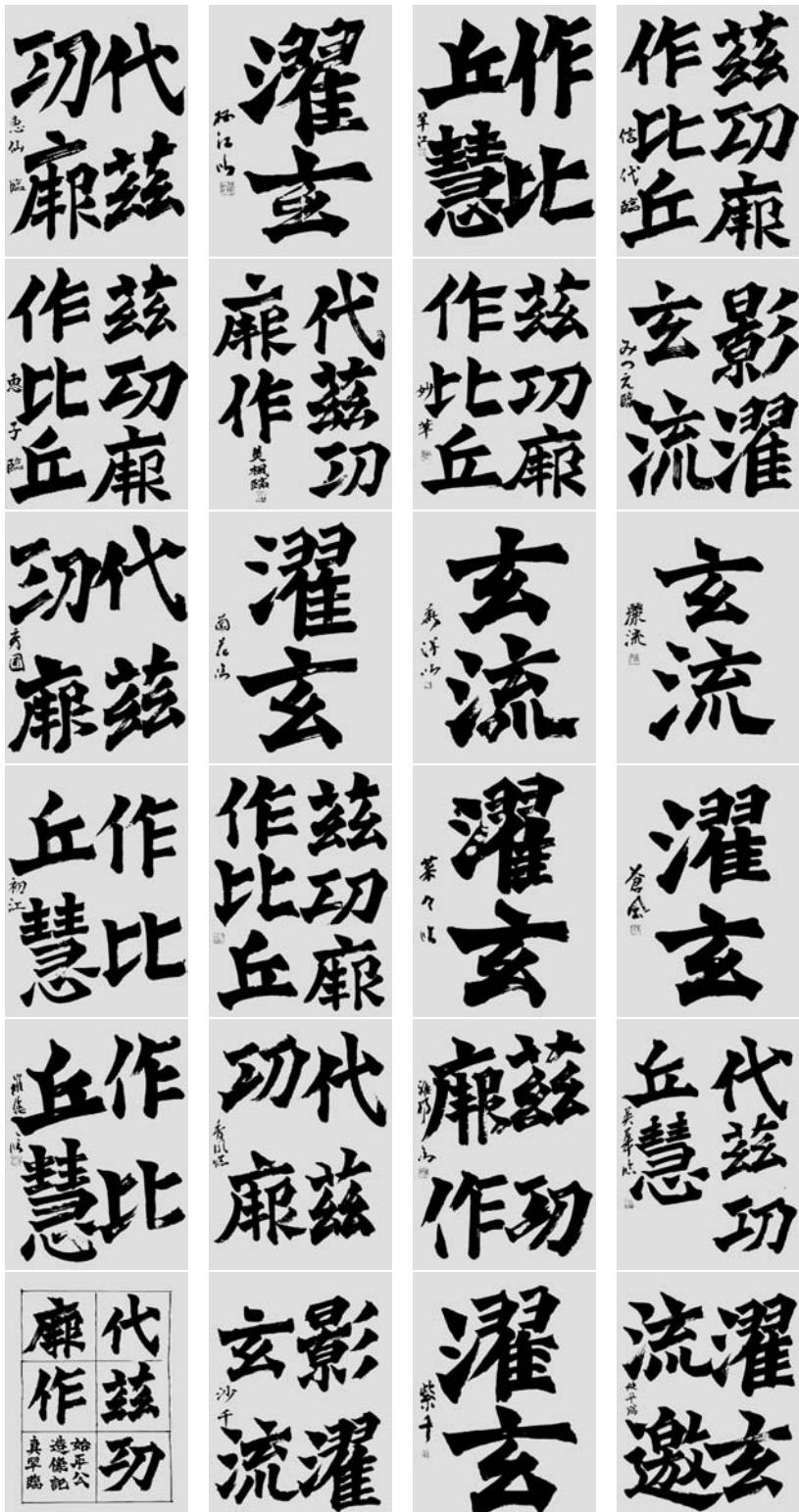
漢字研究部 特選 尾形 紅霞

横画一つを見ても打ち込んだ筆先を少し手前に引いた起筆。次に右への送筆。軽く止め、突き上げるようにして抜いた終筆。どの点画も剛健な用筆で線は重厚。左右の余白も生かし、調和のとれた落款、明るい作品で見事。

◎漢字研究部總評

始平公造像記の末尾には朱義章書、王達文とある。造像記の中では珍しく陽刻で文字は

角ばって方筆。北魏人の気性の表われかとも言われている。今回の課題は「茲の功を厥れ作す。比丘慧成、自ら影を以て玄流に濯ぎ、昌運に邀逢す。」字数が少なく、字形や筆路に不鮮明な文字が多く、苦労されたのではなかつたが、はっきり分かる文字の構成、用筆、力強さなど基本からしっかり学びましょう。



真雅初秀恵
翠悠江圃子仙

沙香美蘭美桜
千風子花楓江

紫雅菜華妙翠
千邦々洋華江

純英蒼麗み信
つ平華風流え代

か な 研 究 部
(右衛門切)

選評 勝山初美

今月のホープ作品

愛み弘
どり子
石

幸舟雲子知美

良美春
泉雪華

千竹久
峰葉美

高玉研こ有岩大
陵松翠だ沼秋だ雲

松竜高長た高A大こ大京硯石書一竜紅大竜蓮澄玉大安う
村泉井月か崎I阪だ雲橋水習泉心泉瑤雲泉紅春松雲波

特
選

作一
會青淺五石石磯貝崎川十木木川

茂高樺増浜根伊後大高吉宮松都西後須堀後本宇長黒小飯
木橋田田野津藤藤石武田澤丸丸岡藤田切藤田田谷柳野高

風 嵩 葵 勇
君 洋 佳 子 鄉 介
正 子 耀 子 子 荣

五紅高 A 玉玉青生秀上翠玉澄竜た正蕙高蒼樹若竹秀竜こ
蕙蘚嶺 I 松川薄大勅皇柳松春皇か華畫嶺原直蕙尾水皇

村佳乃半美扇
阿久作綿鶯吉山

秀理太子・華

花葉春橋春ま張水陵春”泉舟阪ま泉泉仙崎葉 崎島中
茂喜松増別深平林花丹浪中中内富田高鉛鉛神波塙酒熊国

日本
ゆり

嘉慶嘉慶 遵館藏清宮故人手稿音訛大彩先生詩上種

香生正書明八華
書大華游漢生仙

惠美子 謙
与称子
咏岫
玲 岳
三郎
幸 一
澤 期

三块山腰生苔草上，生长着草木上生长着长河石砾山。

選外
方塗書運東華
蘭和游紅伯仙
179

長橋本川谷山田深堀平山さる谷川津江多野田川下尾山崎下藤吉豊前前本丸真牧宮宮宮本武谷安

名略 信矩一紅真雪
溪子榮雅紀翠

考察研究部成績表

かな研究部 特選 飯高 幹生
彈力のある躍動する線が冴え、右衛門切の特長を
良くとらえています。墨色の変化もすばらしく、日
頃の鍛錬の賜物と言えるでしょう。